

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2470201209
法人名	有限会社 コーブンシャ
事業所名	グループホーム ほのぼの
所在地 (電話番号)	三重県四日市市笹川町2丁目175番地 (電話) 059-322-3305
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 9 月 24 日(水)

## 【情報提供票より】 (H20年9月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 4 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 5人, 非常勤 6人, 常勤換算 6.7人	

### (2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	(1人部屋)40,000円(2人)37,000円	その他の経費(月額)	14,000 円	
敷 金	有( 円) <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>			
入居負担金 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(100,000 円) 無 <input type="radio"/>	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり 1,400円			

### (4)利用者の概要( 9 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	5 名	要介護2	1 名			
要介護3	3 名	要介護4	名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	81.3 歳	最低	78 歳	最高	91 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	品川医院 ・大歯科
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の西南部に位置し、大団地の北にあり主要道路から入った一戸建住宅地の1画にある木造1階建の改修された民家が(事業所代表者の元自宅)事業所となっている。近隣との付き合いもよく自治会、老人会にも加入され、利用者にとっては、住み慣れた自宅での生活となら変わらない雰囲気なかで、毎日の暮らしが継続されている。職員も管理者はじめ若い男性職員、人生経験豊富な職員達との協力関係も良く働きやすい職場であり、利用者も安心して、「ゆっくり、いっしょに、楽しく」の理念のもとで地域住民とのコミュニケーションが図られている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスの「運営理念」、「災害対策」等は、管理者、職員とで話し合い検討された。運営推進会議の開催については第1回目は実施されて、ケアサービスの質の向上を目指し取り組まれている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、日々のケアを振り返る機会として、職員1人ひとりが分担し意見を記入しミーティングの後、管理者がまとめられた。
重点項目②	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活取り組み(関連項目:外部4、5、6) 運営推進会議は平成19年10月に第1回目を開催されている。メンバーは家族代表、自治会長、老人会長、市職員、施設長、管理者が出席しており、討議内容は、事業所の概要、行事等を説明された。自治会からは、地域にもっと出かけてきてほしい等の意見が出されている。運営推進会議は事業所の理解と支援を得る機会となることから、今後は概ね2か月に1回開催されることを期待する。
重点項目③	家族に意見、苦情、不安への対処方法・運営への反映(関連項目:外部7・8) 「意見箱」は設置されているが、家族からの苦情等の投書はない。訪問時等に家族からでた意見については、職員間で検討されケアサービスに活かされている(職員の接遇について等)。苦情相談窓口等は、重要事項説明書に明記されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所としては、自治会、老人会に加入しており、地域から案内された行事、地域活動(清掃)等に出かけている。また、事業所(夏祭り、いも煮会、餅つき等)の行事に参加してもらう等、地域の人達との交流を図っている。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、いっしょに、楽しく」を基本に地域とのつながりを大切に明るい事業所を目指すことを加え理念にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は会議、日常のケア、地域の中で日々理念の実践に取り組んでいる。		
管理者、職員					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会に加入し、地域の行事(ふれあい祭)、地域活動等の案内があり出席している。また、事業所の行事(夏祭、芋煮会、餅つき)にも参加してもらい地域の人達との交流を図っている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については日々のケアを振り返る機会と考え、職員一人ひとりが分担して記入ミーティングを行い、後に管理者がまとめた。外部評価の結果は会議等で報告し、改善にむけて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は平成19年10月に第1回目を開催された。記録は法人代表者事務所に保管されている。メンバーは家族代表者、自治会長、老人会長、市職員、施設長、管理者等が出席している。討議内容は、事業所の概要、行事等を説明され、自治会からは地域にもっと出かけてほしい等の意見が出されている。	○	運営推進会議は定期的に行われ、事業所の理解と支援を得る機会となることから、今後は概ね2ヶ月に1回を目標に開催し、記録も事業所で保管されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との連携は施設長が、窓口になっている。事業所としては市が主催する介護サービス向上連絡会に出席している。また、介護相談員の来訪もあり市との連携はされている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回「ほのぼの通信」で利用者の日常の暮らしぶりを知らせている。健康状態については随時電話で連絡している。金銭管理は利用者の預り金は支出帳があり記録もされ、家族への報告(コピー)もされている。職員の異動については、家族の来訪時に紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「意見箱」は設置しているが、家族からの意見、苦情、不満等の投書はない。来訪時等に家族からでた意見については職員間で検討されケアサービスに活かされている(職員の接遇について等)。外部の苦情相談窓口等は、重要事項説明書に明記されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は去年は2名あったが、同法人事業所内への異動であった。職員の異動には、利用者への影響を考え配慮している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県グループホーム協議会主催の研修に管理者、職員も出席している。研修内容によっては、個人希望で受講する事もある。研修受講後は報告書を作成し会議等で伝達もしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流はしていない。法人内の事業所へは訪問したり、利用者と一緒に行事に参加している。また、県のグループホーム協議会の研修の機会に、情報交換をするよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者の家族は、まず事業所を見学し、その後に利用希望者に体験入所してもらう等(希望者のみ)事業所の雰囲気に馴れた上で、利用希望者、家族が納得し入所するように支援している。		
(					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と、日常の暮らしの中で、畑仕事、食事の後片付け、洗濯物干し等を一緒にしながら野菜の収穫の仕方、花の名前、戦争体験等を利用者から教えてもらっている。		
CD					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、利用者一人ひとりの思いを引き出すように努め、ドライブに出かけたい利用者、農作物の収穫の好きな利用者、掃除の好きな利用者には出来る範囲で支援している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意向等を把握し月1回のミーティングを行い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の介護の中で、利用者の状態の変化を連絡ノートに記録し、ミーティングで検討し見直しをしている。随時話し合い新たな介護計画の作成をしている。基本的には3ヶ月に1回見直ししている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
で					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に応じた買い物、喫茶店、ドライブ等職員と一緒に出かけている。家族の都合のつかない時の医療機関受診を支援している。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には6ヶ月に1回家族の協力で受診しており、必要に応じて医療機関からの往診も受けている。医療機関と事業所との連携はよい。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が、重症になり医療が必要となった時は、利用者、家族と話し合い医療機関、または老人介護施設を進める方針である。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりにあつた排泄、入浴介助、食事等の言葉かけに配慮している。書類等の個人情報の取り扱いも周知され、利用者、家族の同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調、気持ちを尊重し、朝食の時間、食事の献立(パン食または和食)等、利用者の意向に添うような支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように、家庭菜園での野菜の収穫、料理の下準備、後片付け等を利用者と職員が一緒にいき、日々の食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるようになっている。入浴順番等は、利用者の体調によっても異なる。基本的には隔日に1回は入浴できるように配慮している。今夏は毎日入浴してもらった。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできること好きなことを見出し、野菜の収穫、食事の後片付け、掃除機がけ等が楽しみでもあり、役割にもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい時は、近くの公園まで散歩、事業所そばの畑に出かける。利用者の誕生会には外食、映画鑑賞等に遠出するよう支援もしている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉だけ施錠しているが、よく目配りするようにしており、玄関や居室への施錠はされていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を平成20年7月に、地域自治会に呼びかけ実施した。避難訓練を実施したことで、改善点が明確になった。(ベランダにあるソファの位置)今年耐震工事を去る8月に実施した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(1)居心地のよい環境づくり開始ア					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	事業所が、食材を購入し調理をしている。利用者一人ひとりの食事摂取量は介護日誌に記録されており、水分摂取量も配慮されていた。栄養状態は血液検査結果を指標にされている。	○	栄養摂取は栄養バランスが配慮される事が重要である。法人の事業所に栄養士の資格を有する職員が在籍していることもあり、専門的な観点からの支援を期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花が飾られていた。居間にはゆったりした大きなソファが置かれ、窓からは庭の植木が眺められて、気のあった利用者同士が隣にすわる等居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベット、収納押入れ、エアコンが設置されている。利用者の好みで、鏡台、テーブル、衣装箱、家族の写真を飾るなど利用者がそれぞれ落ち着いて過ごせるようになっている。		